

株主通信

第69期報告書

平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで

飼は食を司る



目次

- ・株主のみなさまへ
- ・セグメント別概況
- ・連結財務諸表
- ・クローズアップ <マルナカ>
- ・株式の状況
- ・会社概要・拠点紹介

中 中部飼料株式会社

証券コード:2053

株主のみなさまへ



代表取締役会長 平野 宏 代表取締役社長 久光 正郎

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、中部飼料株式会社 第69期（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）の株主通信をお届けいたします。

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境が改善するなど緩やかな回復基調にありましたが、中国を始めとするアジア新興国や資源国の景気下振れなどの影響もあり、急速に円高・株安が進むなど、景気の先行きに懸念が残る状況にありました。

飼料業界におきましては、期初は安値傾向で推移していた主原料のとうもろこし価格が、6月中旬以降、米国の多雨による作柄低下傾向から急騰した後、天候回復から値を下げるなど、振れ幅が大きく推移しました。こうした原料状況を反映して、飼料メーカー各社は配合飼料価格を3度値下げしました。値下げの影響とメーカー間の競争激化により、厳しい事業環境が続きました。また、10月5日にTPP交渉が大筋合意に達し、当業界に大きな影響を与える予想されます。

このような状況のなか、当社は顧客の利益に貢献する差別化飼料の拡販や製販一体の強みを活かした提案営業の推進などで売上拡大を図る一方、原料の有効利用によるコストダウン等で原価を低減するなど、業績の向上に努めてまいりました。また、経営体質をより強固にすること及び差別化飼料の製造をより一層強化して競争力を高めることを目的に、7月31日に2つの資本業務提携を個別に締結しました。1つは、伊藤忠商事株式会社及び伊藤忠飼料株式会社との提携で、その内容は、10月1日付で伊藤忠飼料株式会社から分社化された飼料製造会社（みらい飼料株式会社）に当社が51%を出資し、同社を連結子会社化したこととあります。みらい飼料株式会社への出資金及び貸付金に充当するために、伊藤忠商事株式会社及び伊藤忠飼料株式会社を含む伊藤忠グループ3社を引受先とする第三者割当増資を行いました。もう1つは日本ハム株式会社との提携で、その内容は、従来からの飼料を中心とした相当量の取引関係をより一層強固なものにし、更に発展させるために、相互に資本参加す

ることあります。この資本提携のために、同社を含む日本ハムグループ3社を引受先とする第三者割当増資を行いました。

その結果、当連結会計年度の売上高は、みらい飼料株式会社の連結子会社化などにより、前期比9.8%増の1,701億72百万円となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費が増加したものの、畜産飼料販売量の増加や水産飼料の利益率向上などにより、前期比18.6%増の34億23百万円となりました。経常利益は、営業外収益に貸倒引当金戻入額を計上したことや前期に営業外費用に計上した貸倒引当金繰入額がなくなったことなどにより、前期比24.2%増の37億33百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に特別損失に計上した災害による損失がなくなったことなどにより、前期比61.6%増の26億9百万円となりました。

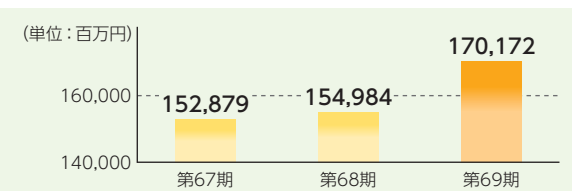
なお、平成29年3月期の通期見通しにつきましては、売上高1,830億円（前期比7.5%増）、営業利益34億円（前期比0.7%減）、経常利益35億円（前期比6.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益24億円（前期比8.0%減）を見込んでおります。

当社は、顧客価値を創造するため、自社一貫生産設備による優位性と優れた製造技術を活かして、差別化飼料の開発・製造を推進してまいります。また、当社の畜産飼料製造6工場及びみらい飼料株式会社の4工場を合わせた10工場で全体最適を図り、スケールメリットを活かしたコストダウンを実施し、より一層の拡販に努めてまいります。更に、日本ハムグループとの提携を活かし、消費者のニーズに応える畜水産物の開発に取組み、これに合致した飼料の開発を一層推進し、フードチェーンの一翼を担ってまいります。今後とも、経営理念である「特性ある仕事をして社会に貢献する」を実践し、わが国の飼料業界を健全に発展させる中核企業となるため、将来に向けた成長戦略を描き実行してまいります。

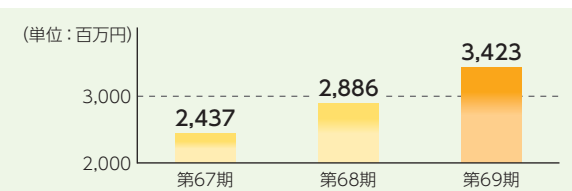
株主のみなさまには、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年6月

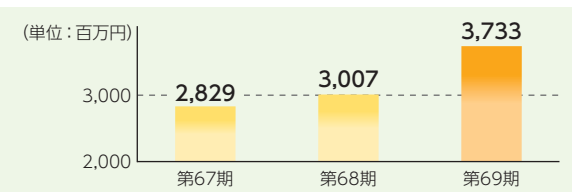
売上高 1,701億72百万円 (前期比9.8%増)



営業利益 34億23百万円 (前期比18.6%増)

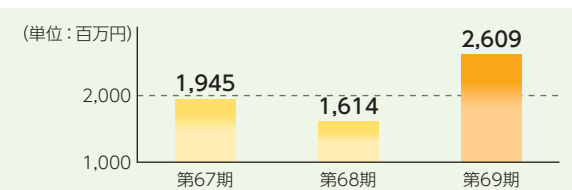


経常利益 37億33百万円 (前期比24.2%増)



親会社株主に帰属する当期純利益

26億9百万円 (前期比61.6%増)



セグメント別概況

飼料

畜水産飼料の製造販売

売上高

売上構成比
84.2%

1,432億39百万円

前期比 **11.0%** ↑

セグメント利益

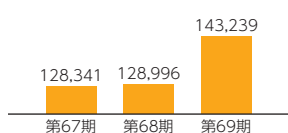
利益構成比
81.1%

30億25百万円

前期比 **40.8%** ↑

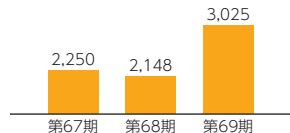
売上高推移

(単位：百万円)



セグメント利益推移

(単位：百万円)

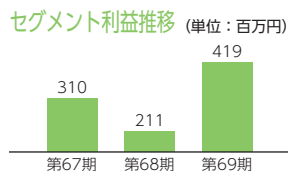
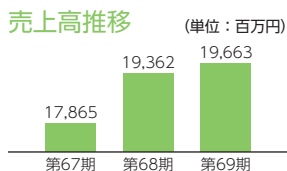
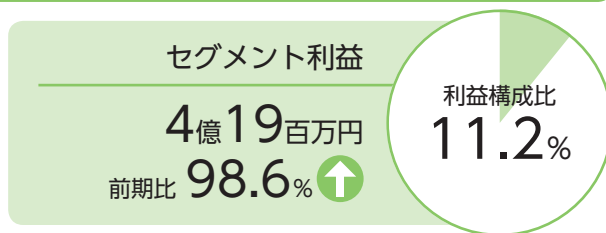


売上高は、値下げの影響で平均販売価格が低下したものの、みらい飼料株式会社の連結子会社化や販売量が増加したことにより、増収となりました。セグメント利益は、原料ポジションが悪化したものの、差別化飼料がけん引して販売量が増加したこと、前期に計上した災害による損失がなくなったこと、水産飼料が好調であったことなどにより増益となりました。



コンシューマー・プロダクツ

消費者向けの畜水産物の販売、ペットフードの製造販売

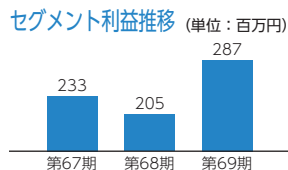
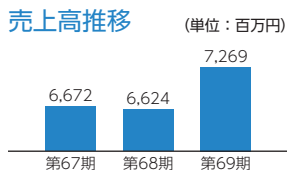
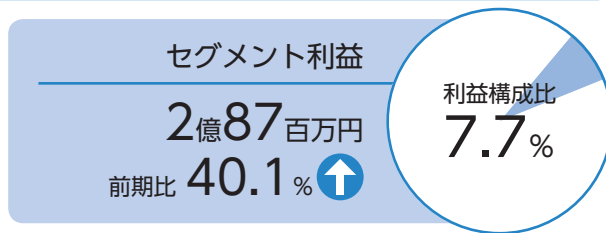
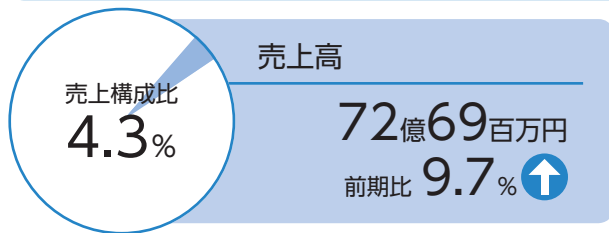


売上高は、ペットフード、畜産物ともに前期を上回ったことにより増収となりました。セグメント利益は、増収効果と経費削減による利益率向上などにより、増益となりました。



その他

畜産用機器の販売、肥料の製造販売、不動産賃貸、保険代理業



畜産用機器の販売台数と配合肥料の販売量が増加したため増収増益となりました。



注 セグメント別利益構成比には、調整額を含めておりません。

連結財務諸表

● 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (平成27年3月31日)	当期末 (平成28年3月31日)		前期末 (平成27年3月31日)	当期末 (平成28年3月31日)
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	40,279	46,336	流動負債	22,075	26,093
現金及び預金	1,163	4,539	買掛金	10,344	12,235
受取手形及び売掛金	27,684	30,097	短期借入金	6,015	8,159
商品及び製品	2,226	2,398	1年内返済予定の長期借入金	2,155	2,067
仕掛品	659	676	リース債務	2	2
原材料及び貯蔵品	5,733	6,237	未払費用	1,779	1,707
繰延税金資産	110	445	未払法人税等	441	496
その他	3,040	2,290	賞与引当金	457	400
貸倒引当金	△338	△348	役員賞与引当金	36	44
			その他	842	980
固定資産	25,128	29,102	固定負債	5,107	5,672
有形固定資産	19,428	22,574	長期借入金	2,943	3,063
建物及び構築物	6,216	6,911	リース債務	12	9
機械装置及び運搬具	5,240	6,629	繰延税金負債	609	639
工具、器具及び備品	601	648	債務保証損失引当金	45	38
土地	7,173	8,363	退職給付に係る負債	490	671
リース資産	20	17	資産除去債務	84	84
建設仮勘定	176	4	その他	923	1,164
無形固定資産	619	398	負債合計	27,182	31,765
投資その他の資産	5,080	6,129	(純資産の部)		
投資有価証券	4,207	5,308	株主資本	36,101	42,317
長期貸付金	315	2	資本金	2,695	4,736
繰延税金資産	223	297	資本剰余金	2,353	4,394
退職給付に係る資産	82	5	利益剰余金	31,145	33,245
その他	1,140	823	自己株式	△92	△58
貸倒引当金	△888	△307	その他の包括利益累計額	2,102	800
			その他有価証券評価差額金	1,742	1,291
資産合計	65,408	75,439	繰延ヘッジ損益	451	△273
			為替換算調整勘定	15	6
			退職給付に係る調整累計額	△106	△224
			非支配株主持分	21	555
			純資産合計	38,225	43,673
			負債純資産合計	65,408	75,439



● 連結損益計算書

(単位：百万円)

	前期	当期
	(平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	(平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで)
売上高	154,984	170,172
売上原価	139,823	154,158
売上総利益	15,160	16,014
販売費及び一般管理費	12,274	12,591
営業利益	2,886	3,423
営業外収益	498	614
受取利息	11	6
受取配当金	96	98
持分法による投資利益	—	7
貸倒引当金戻入額	—	158
債務保証損失引当金戻入額	2	6
保管料収入	183	181
その他	204	154
営業外費用	378	304
支払利息	77	63
持分法による投資損失	24	—
貸倒引当金繰入額	97	—
保管料原価	171	169
株式交付費	—	29
その他	6	41
経常利益	3,007	3,733
特別利益	33	23
固定資産売却益	7	3
投資有価証券売却益	2	0
ゴルフ会員権評価益	—	0
補助金収入	23	19
特別損失	544	41
固定資産除売却損	56	22
投資有価証券評価損	5	13
ゴルフ会員権売却損	0	5
災害による損失	482	—
税金等調整前当期純利益	2,496	3,715
法人税、住民税及び事業税	945	889
法人税等調整額	△70	262
法人税等合計	875	1,152
当期純利益	1,620	2,563
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	6	△46
親会社株主に帰属する当期純利益	1,614	2,609

● 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前期	当期
	(平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで)	(平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	4,085	5,028
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,926	△7,416
財務活動による キャッシュ・フロー	△2,203	5,765
現金及び現金同等物に 係る換算差額	10	△2
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△34	3,375
現金及び現金同等物の 期首残高	1,187	1,153
現金及び現金同等物の 期末残高	1,153	4,529

クローズアップ <マルナカ>

◇ 北海道工場の代用乳製造プラントが本格稼働！新製品を販売開始

①平成27年11月 北海道工場に代用乳製造プラントが完成



プラント完成後、試運転・試験製造を重ね、平成28年4月より、本格稼働を開始しました。

当プラントでは、子牛用の代用乳を製造しております。代用乳は粉状で、お湯に溶かして液状にし、哺乳期の子牛に与える人工ミルクです。

②平成28年4月より、新製品ゴールドシリーズを本格販売開始

代用乳製造プラントの稼働と共に、当社オリジナルの子牛用代用乳“ゴールドシリーズ”の本格販売を開始しました。

ゴールドシリーズは、以下の特長を持っています。

- 当社独自の栄養バランス設計により、子牛の成長を促進
- 消化しやすい原料を採用することで、子牛のお腹への負担を軽減
- 従来より溶けやすく、溶け残りが少ないため、容器の掃除が簡単

お客様より高評価を頂いており、販売面でも順調な立ち上がりを見せています。今後、ゴールドシリーズを切り口にして自社製造飼料をお客様にトータルで提案し、養牛用飼料全体の販売量増加に繋げていきます。

— 子牛のひとりだちを応援する —
④オリジナル哺乳期子牛用代用乳
ゴールドシリーズ

④独自の栄養バランス設計により、子牛の成長を促進

消化しやすい原料を採用することで、子牛のお腹への負担を軽減

従来より溶けやすく、溶け残りが少ないため、容器の掃除が簡単

中 中部飼料株式会社
ゴールドシリーズの詳細につきましては
最寄りの各工場 営業担当者へお問い合わせください

◇ 全飼料製造工場にてISO22000を取得し、安全への取組を強化

当社は、平成28年2月19日に、食品安全マネジメントシステムの国際規格であるISO22000の認証を取得しました。

これまで当社は、飼料製造6工場でISO9001の認証及び抗菌剤GMPガイドライン適合工場認定を取得し、安全で高品質な飼料を製造する体制を確立しておりましたが、このたびISO9001に替えてISO22000の認証を、水産部静岡工場を加えた全ての飼料製造工場を取得しました。

当社は、飼料製造において食品の安全を保証するための社内体制を確立することにより、今後も安全・安心で信頼して頂ける飼料をお客様にお届けしていきます。



認証登録工場	本社工場、北海道工場、八戸工場、鹿島工場、水島工場、志布志工場、水産部静岡工場
認証登録範囲	畜産・水産用飼料の製造

IRカレンダー

- 平成28年 7月15・16日
 - 「名証IRエキスポ2016」へ出展予定です。
 - 会場：名古屋市中小企業振興会館
- 平成28年 8月26・27日
 - 「日経IR・投資フェア2016」へ出展予定です。
 - 会場：東京ビッグサイト
- 平成28年 12月13・14日
 - 「野村IR資産運用フェア2016」へ出展予定です。
 - 会場：東京国際フォーラム



株式の状況

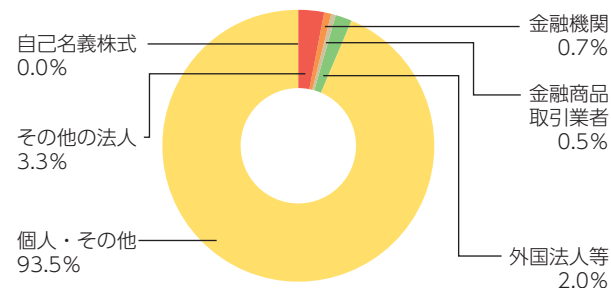
株式状況（平成28年3月31日現在）

- 発行可能株式総数 80,000,000株
- 発行済株式の総数 30,371,908株
- 株主数 4,965名
- 大株主

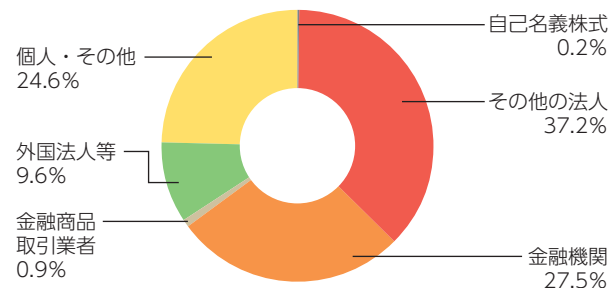
株主名	持株数 千株	持株比率 %
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,785	5.89
日本生命保険相互会社	1,486	4.90
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,000	3.29
豊田通商株式会社	945	3.11
日本ハム株式会社	945	3.11
伊藤忠飼料株式会社	945	3.11
平野殖産株式会社	893	2.94
株式会社横浜銀行	815	2.68
東京海上日動火災保険株式会社	754	2.48
丸紅株式会社	752	2.48

（注）持株比率については、自己株式（53,623株）を控除して算出しております。

所有者別株主比率



所有者別株式比率



会社概要・拠点紹介

会社概要 (平成28年6月29日現在)

- 会社名 中部飼料株式会社
CHUBU SHIRYO CO., LTD.
- 本店所在地 愛知県知多市北浜町14番地6
- 本部所在地 名古屋市中村区名駅南1丁目27番2号
日本生命笹島ビル17階
- 本部TEL 052-562-2010
- 設立 昭和24年3月24日
- 資本金 4,736百万円

取締役及び監査役

代表取締役会長	平野 宏
代表取締役社長	久光 正一郎
専務取締役	藤田 京一
専務取締役	平野 晴信
常務取締役	牧田 健二
取締役	川上 政彦
取締役	近藤 祐司
取締役	小林 洋哉
取締役	酒井 映子
常勤監査役	伊藤 隆文
監査役	松林 茂晴
監査役	岩本 秀之

(注) 取締役小林洋哉及び酒井映子並びに監査役松林茂晴及び岩本秀之は、社外役員であります。



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所 公告の方法	東京証券取引所・名古屋証券取引所 電子公告により行う 公告掲載URL http://www.chubushiryu.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



ホームページのご案内

当社のホームページでは会社概要・事業内容・IR情報などの最新情報をご参照いただけます。

<http://www.chubushiryu.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。